

# 彙 報

会 長 柴 谷 方 良

## 平成10年度第2回常任委員会

日 時：平成10年9月12日 午前11時～午後6時

場 所：神戸大学文学部会議室

出席者：柴谷方良（会長）、窪園晴夫（事務局長）、井出祥子、荻野綱男、影山太郎、西光義弘、田窪行則、原田かつ子

オブザーバー：平野尊識（第117回大会大会運営委員長代理）、藤井義久（事務局長補佐）、松瀬育子（事務局長補佐）

### 報告事項

- (1) 文部省科学研究費補助金の審査委員として第1段階に4名、第2段階に2名を推薦した。
- (2) 文部省より例年通り60万円の補助金（科学研究費補助金「研究成果公開促進費」）決定の通知があった。

### 審議事項

- (1) 第116回大会に関して大会運営費が予算を超過した。今後予算枠を増額するか、現行の予算で開催校の大会運営委員に赤字を出さないように調整してもらうようにすべきであるとの議論がなされ、この件は引き続き検討されることになった。
- (2) 第117回大会（平成10年度秋季大会）における講演、シンポジウム、研究発表などの詳細を決めた。講演者である Ernesto A. Constantino 講師（フィリピン大学）は国際交流基金の「国際会議等主席者招聘事業」によるものである。発表応募件数59名のうち45名の発表を採択した。
- (3) 第118回大会（平成11年度春季大会）は東京都立大学で行われる。大会運営委員長は荻野綱男氏である。平成11年6月19日（土）、20日（日）を予定している。
- (4) 第119回大会（平成11年度秋季大会）は神戸松蔭女子学院大学で行われる。
- (5) 平成11年8月23日から28日かけて関西大学セミナーハウスを会場として日本言語学会夏期講座を行う。特別講師は Talmy Givon 講師である。

会費は一般会員6万円、学生会員は5万円あたりを想定している。

- (6) 国際関係作業部会から Pacific Rim Institute 検討小委員会の委員として、井出祥子氏、原田かつ子氏、田窪行則氏、早田輝洋氏、井上和子氏、角田太作氏を推薦する提案がなされた。

#### 平成10年度第2回委員会

日 時：平成10年10月31日（土）午前10時～午後1時30分

場 所：山口大学大学会館2階会議室

出席者：柴谷方良（会長）、西光義弘（事務局長代理）、井出祥子、井上和子、荻野綱男、影山太郎、金水敏、国広哲弥、久保智之、坂本勉、崎山理、庄垣内正弘、田窪行則、田村すず子、辻星児、早田輝洋、原口庄輔、原田かつ子、樋口康一、平野尊識、松村一登、藪司郎、吉田豊。

委任状：40名

オブザーバー：角田太作（会計監査委員）、湯川恭敏（会計監査委員）、奈良毅（危機言語小委員会委員長）藤井義久（事務局長補佐）、松瀬育子（事務局長補佐）。

#### 報告事項

議事に先立ち評議員であられた故河野六郎氏の冥福を祈り黙禱を捧げた。引き続き第117回大会運営委員長である山本和夫氏からの挨拶があった。病気により欠席の窪園晴夫事務局長に代わって、西光義弘氏（常任委員）が事務局長代理を行う旨、報告があった。

- (1) 第117回大会（平成10年度秋季大会）について
- (A) 研究発表応募件数58のうち45件を採択した。採択率は約78%である。
- (B) 大会2日目D会場午前の部の司会者を松本克己氏が都合により欠席のため湯川恭敏氏に交代を依頼した。
- (2) 文部省科研費審査委員候補の推薦について  
第1段階審査委員および第2段階審査委員の候補者として2名ずつ推薦した。
- (3) 文部省からの補助金が例年通り60万円と決定した。
- (4) 平成11年度科学研究費補助金、研究公開促進費「研究成果公开发表(B)」および「同(C)」の募集の発表について。  
特に青少年のためのシンポジウムなどが含まれる(B)について、その活用をめぐって議論した。
- (5) 国際言語学会議(CIPL)について  
CIPLの発行する *Linguistic Bibliography* への日本からの報告者であっ

た近藤達夫氏が現在体調不良により、同会議への日本言語学会代表である下宮忠雄氏に2002年までの期間中交代することが了承された。

- (6) 編集委員会からの報告  
庄垣内正弘委員長から『言語研究』第114号の編集状況について報告があった。
- (7) 危機言語小委員会からの報告  
奈良毅委員長から平成10年10月3日(土)、4日(日)の両日、清泉女子大学を会場にして「シンポジウム『危機に瀕した言語』」を行ったことについて報告があった。約200名の参加者があり、活発な議論がなされ成功裏に終わったことが報告された。
- (8) 河野六郎氏の遺影ならびに追悼文を『言語研究』に掲載することが了承された。

#### 審議事項

- (1) 第118回大会(平成11年度春季大会)について  
東京都立大学を会場にして平成11年6月19日(土)、20日(日)に開催する。大会運営委員長は荻野綱男氏である。
- (2) 第119回大会(平成11年度秋季大会)について  
神戸松蔭女子学院大学を会場にして行う。日程は流動的であるが11月27日(土)、28日(日)を予定している。
- (3) 大会関係作業部会について  
影山太郎作業部会長より来年度内に実現はほぼ不可能であるが、大会関係作業部会を小委員会に格上げし、大会関係の責務を常任委員会とは分離させた形で行う提案があった。現状では応募件数が多いのに対し、査読者が限られているため、当面の措置として査読者を増員するべく、現常任委員に加えてあと2名の委員補充をするように要請があり承認された。
- (4) 夏期講座小委員会について  
平成11年8月23日～28日にかけて関西地区大学セミナーハウスを会場に日本言語学会夏期講座を行う。実行委員長は西光義弘氏。他の委員は荻野綱男氏、林博司氏、岸本秀樹氏である。特別講師に Talmy Givon を招聘する。経費は概算で820万円であり、参加費は食費、宿泊費込みで一般会員6万円、学生会員5万円を予定している。
- (5) Pacific Rim Institute 検討小委員会について  
Pacific Rim Institute 検討小委員会の委員として以下の諸氏が常任委員会より推薦され承認された。早田輝洋氏(委員長)、角田太作氏(海外

事務担当), 田窪行則氏 (国内事務担当), 井上和子氏, 井出祥子氏, 原田かづ子氏.

(6) 小委員会の位置づけについて

以下のとおり小委員会申し合わせ事項を承認した.

(A) 小委員会の設置

小委員会は, 特定の検討事項が発生した時点において, 会長がその必要を認めた場合に, 委員会の承認を経て設置される.

(B) 小委員会委員の選出

小委員会委員の選出は, 委員会からの推薦を受けて会長が取り纏め, 委員会の承認を経て行われる. 会計監査委員は, 小委員会の委員を兼ねることが出来る.

(C) 小委員会委員長の選出

委員長の選出は, 小委員会のメンバーの互選による.

(D) 小委員会の期限および委員の任期

小委員会は, その目的が達せられた時点, または会長がその必要性がなくなったと判断した時点において, 委員会の承認を経て解散される. 小委員会委員および委員長の任期は, 小委員会で決める.

(E) 小委員会の活動

小委員会は, その活動の企画立案ならびに運営については独立性をもつが, 活動状況については委員会および『言語研究』彙報欄において報告する義務を負う.

(F) 特別予算の計上

特別な予算執行を伴う企画については, 小委員会が前年度のうちに会長に諮り, 予算の計上を申し入れる.

## 第117回大会

期 日 1998年10月31日(土)~11月1日(日)

会 場 山口大学(吉田キャンパス)

## 第1日(10月31日)

公開講演会・総会 午後1時45分~5時30分

開会の辞

会 長

開催校挨拶

講 演 フィリピン言語学の現状と課題 Ernesto A. Constantino  
(Current topics in Philippine linguistics)シンポジウム フィールド言語学と理論 司会 柴谷方良  
(Field linguistics and theory) パネリスト 平野尊識

Christian Lehmann

角田太作

会員懇親会 午後6時~8時

## 第2日(11月1日)

研究発表 午前9時30分~午後3時50分

## ◦A 会 場

司会 金水敏

(A 1) 9:30~ 「ナッテイル」の非アスペクト用法 佐藤琢三  
—「ナル」による心内プロセスの表示—

(A 2) 10:00~ 日本語述語三分類の提案 杉浦滋子

司会 寺田 寛

(A 3) 10:50~ On Multiple WH-Interrogatives 小林 亜希子  
in English: Reformulation of the ECP

(A 4) 11:20~ 素性異同による素性称号 富山晴仁

(A 5) 11:50~ The Zero Complementizer in Embedded Wh-Questions in Standard English Type  
松原史典

司会 郡司 隆男

(A 6) 1:30~ Subject NPI licensing and verb movement 北元 美沙子

(A 7) 2:00~ Nominative-Genitive Conversion, Feature Checking, and the Syntax of Verbal Inflection  
in Japanese 平岩 健(A 8) 3:50~ 「(Xは) 誰も/何も/~しかPと思わない」森 貞  
構文の認可条件について(A 9) 3:20~ 数量詞の作用域解釈と文法項・付加句の 高井岩生  
非対称性

◦B 会 場

- 司会 坂本 勉
- (B 1) 9:30～ アラビア語と日本語の感情表現 イブラヒム ワリード  
語彙の類義構造
- (B 2) 10:00～ 心身の状態を表す擬態語動詞表現を 吉 永 尚  
めぐって
- 司会 有田 節子
- (B 3) 10:50～ 日本語におけるコントロール構造再考 早 川 幸 子  
—動詞の意味による分析—
- (B 4) 11:20～ 事象を継続的に解釈させる項の性質に 守 屋 哲 治  
ついて
- (B 5) 11:50～ 「すむ・すませる」構文と出来事の終結性 福 安 勝 則  
について
- 司会 迫田久美子
- (B 6) 1:30～ 文脈指示の「この/その」の言い換えに 堤 良 一  
ついて
- (B 7) 2:00～ All new sentence における無助詞/有助詞 木 下 恭 子  
の使い分けと情報構造
- 司会 坂原 茂
- (B 8) 2:50～ Cognitive Framework for Yoshiko Matsumoto  
Noun-Modifying Constructions in Japanese
- (B 9) 3:20～ 日本語条件文と認知的マッピング 田 窪 行 則  
笹 栗 淳 子  
金城 由美子

◦C 会 場

- 司会 和田 学
- (C 1) 9:30～ 中国語における表現形式と丁寧度の 盧 万 才  
相関関係—命令・依頼表現に関して—
- (C 2) 10:00～ 談話マーカー「그래서」と Face 行為 曹 永 湖
- 司会 渋谷 勝己
- (C 3) 10:50～ 短型特殊手紙文にみられる伝達行動特徴の 老 田 真 弓  
社会言語学的研究
- (C 4) 11:20～ ポライトネスの観点からみたスポーツ 三 宅 和 子  
実況放送
- (C 5) 11:50～ 現代シンガポール英語の文末詞に見る 大 原 始 子  
トーンと語用論的機能

- 司会 崎山 理
- (C 6) 1:30~ 中央太平洋諸語における能・対格構造と  
その歴史的変化 菊澤 律子
- (C 7) 2:00~ 南米マイブラ語族の, マオリ語および  
ボナベ語との親近性について 大西 耕二
- 司会 佐久間淳一
- (C 8) 2:50~ フィンランド語の派生動詞を用いた  
使役構文の機能 千葉 庄寿
- (C 9) 3:20~ 日韓外来語の音韻的構造に関する分析 加藤 弘  
崔 絢 詰

## ◦D 会場

- 司会 湯川 恭敏
- (D 1) 9:30~ ギリシア語のs語幹中性名詞について 児玉 茂昭
- (D 2) 10:00~ 古代ギリシア語における語根名詞の現われ  
とその印欧語的解析 吉田 育馬
- 司会 樋口 康一
- (D 3) 10:50~ アバール語の再帰代名詞 山田 久就
- (D 4) 11:20~ オリヤ語の関係代名詞と再帰代名詞の意味  
と照応上のふるまい 山部 順治
- (D 5) 11:50~ 現代アイスランド語の“John kissed Mary  
on the cheek”タイプの構文 入江 浩司
- 司会 西光 義弘
- (D 6) 1:30~ 「中核文」認定における表現の意味の  
レベルに関する考察 立川 和美
- (D 7) 2:00~ 行為を数える助数詞「回」と「度」の比較 飯田 朝子
- 司会 塚本 秀樹
- (D 8) 2:50~ 日本語の「句の包摂」に関する一考察 今井 忍
- (D 9) 3:20~ 語順の地理的分布の変遷について 山本 秀樹

## ◦E 会場

- 司会 江口 正
- (E 1) 9:30~ 喜界島方言の条件文・順接文・逆接文 西岡 敏
- (E 2) 10:00~ 福岡市博多方言における不変化詞タイ,  
バイ, クサの用法とモダリティ 坪内 佐智世
- 司会 太田 聡
- (E 3) 10:50~ 秋田県男鹿地方の第1音節母音の「長さ」  
について 近藤 清兄

- (E 4) 11:20～ スペイン語の混成語形成における韻律条件 菊池 清一郎
- (E 5) 11:50～ Opacity and Local Palatization in Plains Cree 廣瀬 富男
- 司会 田村すず子
- (E 6) 1:30～ Evidence for Prominence Based Accent-shifting in Ainu (Saru Dialect) 白石 英才
- (E 7) 2:00～ ソンドンガ語動詞のアクセントについて 湯川 恭敏
- (E 8) 2:50～ 夏蔵村音試料による西夏語の声調の考察 荒川 慎太郎
- (E 9) 3:20～ 現代標準アラビア語の条件文における kâna+“未完了形” 近藤 智子



- ◇ 退 会  
国内会員 52名  
在外会員 10名

---

◇ 誤記の訂正

『言語研究』第114号に以下の誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

		誤	正
144頁	16行	獨協大	獨協大
164頁	15行	Japanese	Japanèse
	16行	獨協大	獨協大

---

- ◇ 本誌は、文部省平成10年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。